伊賀市社会事業協会 2007

2007年9月1日　第13号
発行者
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
理事長　西岡時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL　0595-21-5545
FAX　0595-23-6670
URL http://www.ict.ne.jp/~u-s-j/ueno

護送船団方式

社会福祉法人　伊賀市社会事業協会
会長　森下達也

「護送船団方式」という、旧大蔵省の思考方式に対する些かの揶揄をこめた金融用語が登場して久しい。ひと口に言えば、金融の保護安定を名分として最も資金力の劣る金融機関に合わせた行政指導を行なったことが、自由経済になじまず改革の前進を妨げたという主張があり、それがこの金融用語に揶揄としてこめられているのである。

恐らくは外資や一部のエコノミストから発したものであろうが、やがて他の多くの分野にも広がり、「悪平等は前進の足手まとい故力のある者がまず走れ」と説く時に引用されるようになった。何と、進歩的福祉家の口にまでのぼるようになったのはご承知のとおりである。ではなぜ護送船団が比喩の対象なのか、ということは後述させて頂くとして、大戦中の護送船団について少し触れておきたい。

護送船団とは、遠く離れた前線基地へ多くの兵員や物資を送り届けるために徴発された貨物船群と、それを護衛する何隻かの駆逐艦や海防艦などで編成された輸送船団のことをいう。しかし太平洋戦争の後半、特にフィリピンが主戦場になりつつあった昭和十九年の秋以降になると、制空権と制海権はほぼ米軍に握られていて、かなり多くの船団が満載した兵員もろとも海に没することとなった。

私の先輩知人のひとりが、かつて一兵卒として南方へ送られる途上に遭遇した体験を、後年次のように語ってくれた。

「船団がオルモック湾に近づいた時、待ち構えていたように米機の編隊が襲いかかってきた。一隻の日本駆逐艦が、米機へ対空射撃をつづけながら目の前を走りぬけた直後、火柱を上げ二つに折れて沈むのを見た。自分は四千トン位の貨物船にのっていたが、何度かの爆発音を聞いた後、船は燃えながら横倒しとなり、海に放り出された。米機の去った夕ぐれの海に、幾許の生存者がいたのかよくわからないが、やがて、一隻だけ生き残った駆逐艦が近づき、漂う自分達を次々に引き上げてくれた。駆逐艦の甲板にはまだ乗組員の死体が幾つも横たわり辺りは血だらけであった。船団はほぼ全滅かと思っていたが、数隻の小型船が四散して逃げ、目的地に辿り着いたと後に聞いて少しほっとした。」愚かしい戦争の中でも、往時の日本人には、命がけの連帯感と責任感があったことを想起させる体験談である。

さて、民間から徴発した寄せあつめの貨物船は、大きさも老朽度も速力も様々である。その一群が船団として航行するためには、一番遅い速力の船に合わせて進まざるを得ないから必然的に航海日数は長くなり、敵に捕捉攻撃される確率は高まるわけだ。これが先述の、前進を妨げる硬直的発想として比喩に使われ、揶揄されることになった理由である。残り紙面が少なくなったが、次の二点は申し述べておきたい。

まず、任務を果たすべく護送船団に参加され今は高齢になってお過ごしの方々に対し、この比喩と揶揄は非礼である。次に、弱い者を平然と見捨てて前進することを是とする風潮を世に蔓延させながら、この国は本当に安定と成長をつづけ得るのであろうか。

――終戦記念日に――

旧藩校崇広堂　（故 寺岡 實 水彩画集より）

紅花（べにばな）

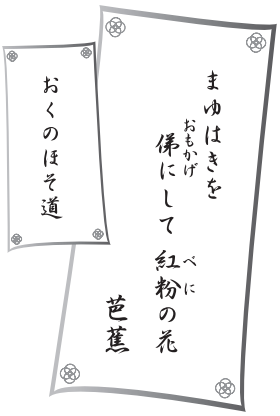
梨ノ木園

紅花はアザミに似たキク科の一年草で、黄紅色の美しい花を咲かせます。タイトルの句は、伊賀で生まれた芭蕉が出羽国（山形県）尾花沢を訪れた時、道の途中で化粧用の紅をとる紅花が一面に咲いているのを見て、女性がおしろいをつけた後に眉を払う小さな刷毛を連想して詠んだ句です。

その芭蕉ゆかりの美しい紅花を毎年届けてくださる方がいらっしゃいます。近隣にお住まいの古川節郎様です。今年も、「梨ノ木園に紅花を植えてください」と、たくさんの苗を寄贈してくださり、その上、植え方もご指導いただきました。ご利用者の皆様は大変喜ばれ、小さな苗を手に取っていつくしむように植えました。

その後も古川様は、草引き、追肥、水遣りと何度となく畑に足を運びお世話をしてくださり、ご利用者、職員共々紅花の生長を心待ちにしていました。やがて紅花はひと雨ごとに大きくなり、六月には花が咲き始め、畑は古川様のご好意が花開いたように一面黄紅色に変わりました。

咲き誇る紅花にふれて



◇お菓子作り◇

第二梨ノ木園

月に一度、“皆で楽しむお菓子作り”を、ボランティアの塚本初子さん、清水栄子さん、角田充代さんにお世話になり実施しております。

季節感を味わっていただこうと４・５月は「よもぎ蒸しパン」を作っていただきました。甘納豆が上に散らされており、ご利用者の皆様にはとても美味しいと好評でした。

６月は「桜餅」でした。桜の葉の辛さをとばすため葉を煮立てているとき、桜の甘い香りが廊下に広がり、食欲をそそられたようです。ご利用者の皆様は桜餅の出来栄えと桜の葉の香りにうっとりとされていました。

よもぎ蒸しパンや桜餅をご賞味されたご利用者の皆様から「これはプロの味や」との声が聞かれ、ボランティアの方々のご利用者を思う気持ちが、お菓子に込められているのだと想像でき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

季節の香りを運んでくれる桜餅

ーご詠歌に魅せられてー

梨ノ木園

“ご詠歌の会”は「心静かに手を合わせ、物故者の冥福を祈りましょう」とご利用者約１５名で発足し、２年になります。梨ノ木園の如来堂に集まり般若心経を唱えた後、西国三十三箇所のご詠歌を練習してきました。そして、居室に戻られてからも録音テープで熱心に練習に励む姿も見られました。

しかし「もっと上手くなりたい」「本格的にやってみたい」とのご利用者からの希望があり、西蓮寺住職 別所法山様を通じ、常住寺住職 森喜良様にご指導をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。

会のメンバーは『続ける事こそ大切な事、頑張りましょう』とのご住職の励ましの言葉を胸に練習に励んでおられます。

心を一つにして唱えます

『岸壁の母』に涙して

老人デイサービスセンター　なしのき

母の日にちなんで五月十四日から十九日までの一週間、職員による寸劇『岸壁の母』を、ご利用者の皆様に楽しんでいただきました。

昭和二十年、太平洋戦争が終戦となり、出征兵士の息子〝新二〟を迎えに何度も舞鶴港に足を運ぶ母〝端野いせ〟。

「あれから十年・・。あの子はどうしているのじゃろう。雪と風のシベリアは寒いじゃろう。つらいじゃろうと。命の限り抱きしめて、この肌で温めてやりたい・・。その日が来るまで死にはせん。いつまでもいつまでも待っている。」の台詞の場面では、それぞれの昔を思い出し涙される方もおられました。

この寸劇を通じて、戦争のない平和な世の中、母のたくましさ等、改めて考えることができた一週間でした。

「岸壁の母」に感動された皆様

▲熱演する職員

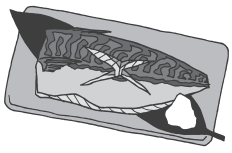
いただきま～す

朝食はきちんと食べていますか?

時間がない、食欲がないなどの理由で最近朝食をとらない人が増えているようです。しかし、朝食は日中の活動に必要なエネルギーをとるためにも欠かせないものです。

朝食をとらないと、脳の唯一のエネルギー源であるブドウ糖が不足し、勉強や仕事がはかどらなかったり、イライラする原因になったりします。また、痩せたいからといって朝食を抜いている人がいますが、これは間違いです。朝食を抜くことにより一日の食事回数が少なくなると、身体は脂肪を蓄えようとして、逆に太りやすくなると言われています。朝食をとることで代謝量が上がり、太りにくい体質になるのです。

朝食をおいしく食べるために、夕食や夜食の食べ過ぎには注意し、これまでより少し早起きして朝食を食べる習慣をつけましょう。



花、いろいろ散策でリフレッシュ!

梨丘園

六月五日・六日と〝花、いろいろ散策〟を合言葉に、市内の白鷺公園へ出かけました。お天気も良く、公園内にはピンクのつつじが満開で、手に触れたり、匂いを嗅いだりして楽しみました。公園の奥では「白つめ草」が絨毯の様に広がっていました。ご利用者や職員たちは、花の首飾りを作ってプレゼントし合っていました。また、森林浴が大変気持ちよく、木陰でジュースを飲みながらゆっくりと会話もはずみました。

満開のつつじに囲まれて

午後三時になると、待ちに待ったからくり時計が鳴り出し、ご利用者の中にはリズムに合わせ身体を動かしながら楽しまれる方もおられました。からくり時計の音楽が終了すると同時に拍手が沸きあがり、とても感動されていました。今回の散策は、ご利用者の皆様にとってリフレッシュになったようです。

白鷺公園のからくり時計

子どもも大人も絵本で心豊かに

本とおもちゃルーム・ぐるんぱ

曙保育園では、本とおもちゃを通して子どもの心が豊かになり、人と人とのふれあいも深めていってくれることを願って、本とおもちゃルーム「ぐるんぱ」を開設しています。

平成十三年十二月に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されたことを機に、この事業に積極的に取り組んでいます。平成十五、十六年には、子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成を受けて、絵本ボランティア養成講座を開催し、絵本のすばらしさや絵本を選ぶときの子どもの気持ちなどを学んでいただきました。翌年、講座を受講された方々が、絵本ボランティア「もこもこ」を結成されました。以来親子に、絵本の読み聞かせを行なったり、楽しい絵本展を開催したりして、絵本を読みあう心地よさを伝える活動をしてくださっています。

祖母に見守られて

ボランティアによる絵本の読み聞かせ

今年度は、絵本ボランティア「もこもこ」が子どもゆめ基金の助成を受け、来る十月二十一日（日）午後一時三十分から曙保育園ひまわりホールで『子どもも大人も絵本で心豊かに』をテーマに、〝大人こそ絵本を〟を提唱されているノンフィクション作家で評論家の柳田邦男さんをお招きして、曙保育園との共催で講演会を予定しています。

絵本の読み聞かせを通して、子どもと心地よい時間を共有するご家族が増えることを願って、絵本ボランティア「もこもこ」と協力して活動の幅を広げていきたいと思います。

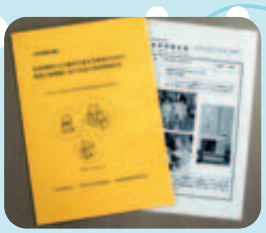
地域保健福祉に貢献　認められる

－食の実態調査研究－

食べることは、乳幼児期の子どもにとって、自分の生命欲求を知り、生きる力の基礎を育み、援助される大人との信頼関係を築く大事な活動です。しかし、大人はどうしても「食べさせよう」としてしまい、子ども自身が意欲的に食べることや、楽しく食べること、そして落ち着いて食べることを後回しにしてしまいがちです。そこで、二〇〇一年から当協会（保育実践者）と高田短期大学（保育研究者）とで、食をテーマに保育の中の食場面を省察し、子どもが食べる活動を通して生きる主体となるべくきめ細かな援助のあり方と、家庭での食生活のあり方を支援する方法を探究してきました。

昨年、この研究を開始して六年目を迎えることから、研究成果を検証するため職員と保護者へ食の実態調査を行ないたいと計画していたところ、幸い、大同生命が地域保健福祉研究に貢献している団体への助成をしていることを知りました。応募したところ、この研究の内容が認められ、食の実態研究に取り組むことができました。

実態調査の結果、保護者は保育園の給食や食育の取り組みに感謝をしている。しかし一方では、「保育園で食べさせてもらっているので安心」とか「忙しいから」等と、園に安易に委ねてきているということも見えてきました。子どもたちの健全な食生活を保障するのは家庭の任務であり、同時に保育園の大きな役割であります。今後も、食への関心が高められるように、今まで当協会が行なってきた栄養三色板活動、食育に関するカルタやエプロンシアター等の食育媒体を使っての保育活動や、給食の試食参観、懇談会、食育相談等、保護者と一緒に進める食育推進を、さらに深めていく必要性が確認できました。


◀完成した食の実態調査研究報告書

クッキング ～ずんだ餅作り～

日々忙しい生活を送る中で、時折、人々は毎日の「食」の大切さを忘れがちです。そこで豊かな緑と水に恵まれた自然のもとで、先人から育まれ、伝えられてきた味覚を味わおうと、『ずんだ餅』作りに挑戦しました。

子どもたちは畑で収穫したえんどうとそら豆の皮をむきながら、「皮の中はふわふわのお布団みたいや」「わあ、赤ちゃん豆がいっぱいや」など、ずんだ餅への期待で会話もはずんでいました。クッキングの身支度をして、友だちと交替で豆をすりつぶし、給食室で煮込んでもらった餡は、驚くほど美しいうぐいす色でした。子どもたちは餡の出来上がりに大満足のようで、団子作りにも力が入りました。粘土や泥あそびを経験している子どもたちは自信にあふれ、手つきも職人さん顔負けのようでした。

どんな豆が入っているのかな

団子に餡をつけて出来上がったずんだ餅の味は格別のようでした。

ずんだ餅作りをする府中保育園児

地域の皆様に支えられて
～予野保育園50周年～

予野保育園が創立50周年を迎えました。昭和33年8月1日、定員40名の認可保育園としてスタートし、現在の園舎は平成元年に改築されたものです。

創立50周年という節目に、園の思い出をたぐっていただける機会にしてもらえたらと思い、地域のお年寄りの皆様のご協力を得て、「ミニひまわり」の鉢を予野地域の全戸にお届けすることにしました。さらに園でも保護者の皆様や小学生をお招きし、ささやかなお祝いの会を催しました。

今後も地域の皆様方のご協力を得ながら、乳幼児期の健やかな成長をつちかう、安心・安全な子育て支援ができる保育園であり続けたいと思います。

▲平成元年改築

昭和33年創立

紙ひこうき 世代をつなぐ

ゆめが丘団地のシニアの会の方々が、幼い頃に経験した遊びの楽しさを、今の子どもたちに味わってもらおうと、三年前から年に三回ゆめが丘保育所を訪れて様々な遊びを教えてくださっております。

今回は、子どもたちの大好きな紙ひこうきの折り方を教えていただいたのですが、ひこうきはひこうきでも、子どもたちにとっては初めて聞く「へそひこうき」に「つばめひこうき」そして「やりひこうき」です。子どもたちはいろいろな飛びかたを連想しながら、飛ばすのを楽しみに折りあげていました。

折りあがると早速風の丘公園の築山へ出かけ、飛ばしっこが始まりました。シニアの方々の飛ばしたひこうきは、折り方が同じなのになぜか遠くまで飛ぶのです。子どもたちは、シニアの方々よりも遠くへ飛ばそうと工夫しているのですが、シニアの方々はただ微笑みながら〝それでいいんだよ〟と子どもたちの力を信じて、見守ってくださっていました。

地域の方々に見守られ、子どもたちの目が輝きつづけた一日でした。

もうすぐできるよ

どこまで飛ぶかな　紙ひこうき

保育園のページ

音訳グループ「しのび」
中日福祉ボランティア賞受賞
上野点字図書館

去る、三月二十三日、名古屋市の中日新聞本社において、第七回中日福祉ボランティア賞の授賞式が行なわれ、上野点字図書館音訳グループ「しのび」が受賞されました。今回受賞された団体は、東海三県で九団体、三重県内では唯一の受賞となりました。第一回目である平成十三年三月には、上野点字図書館点訳奉仕グループ「あい」が受賞し、当館のボランティア団体としては、今回で二度目の受賞となりました。同賞は、福祉は与えるものではなく支えあうものという理念に基づき、地域の福祉を担うボランティア団体を発掘、顕彰し、その活動を広く一般に紹介することで、ボランティア活動がさらに広がることを目的としています。音訳グループ「しのび」の皆様には、ご受賞を心からお祝い申し上げますとともに、永年のご奉仕にあらためて敬意を表し、深く感謝申し上げます。

表彰を受ける武田ルリ子さんと
三村佐弥子さん

玄関をいろどる彩画
～かしの木ひろば～

今年の3月にお雛様の彩画を藤島千代様からいただき、かわいらしさに癒されました。引き続き彩画を描いていただくようお願いして、四季折々の彩画をかしの木ひろばの玄関や壁面に飾らせていただいています。

初めて見る美しく、可憐な彩画に利用者の皆様も喜ばれ、「貴方に逢えると心が踊る」等の添え書きにも心があたたまります。

今、数々の藤島様の彩画から伝わる優しさに癒されています。

藤島千代様の彩画に心あたためられます

ミニコンサートと腹話術
～かしの木ひろば～

６月２１日、かしの木ひろばはギターの生演奏と歌声があふれました。この催しは、音楽を通して様々な場面で活躍されているボランティアグループ『MC(music communication)スパイス』のメンバーで地域権利擁護支援員として週に一度、当施設に来てくださっている峰尚臣様と**帆**ノ下照光様のお二人によって実現しました。ご利用者のリクエストから選曲したミニコンサートで始まり、「ブルーシャトー」、「夏色」そして、「バラが咲いた」等々、一緒に口ずさむ方、楽器を鳴らす方等、それぞれの楽しみ方がありました。また、聴覚障がいの方は、演奏中のギターに触れ、指に伝わる音の響きをじっと感じておられました。

生演奏中のMCスパイスとご利用者

後半の腹話術は**帆**ノ下様と人形との軽妙なやりとりに拍手喝采、笑顔がこぼれました。

みなさん「楽しかった、また来て欲しい」と次回を楽しみにされていました。演奏者と利用者の皆様とが一つになったひとときでした。

自立支援法施行から一年
かしの木ひろば

平成六年四月、県下初の「介護型」在宅障害者デイサービス施設として開設した「かしの木ひろば」は、自立支援法の施行に伴ない平成十八年十月、生活介護事業と地域活動センター事業を実施することになりました。これまでと同様、入浴等の介護サービスを中心に軽作業等も行ない、障がいをお持ちの方お一人おひとりが生きがいのある生活が送れるよう支援しています。

また、居宅介護事業も十月に指定を受けて、身体介護や家事援助、外出時の支援等、ホームヘルプサービスを引き続き行なっています。最近は障がいを持つ児童の移動支援のニーズが多くなり、ご家族に代わって徒歩で学校やバス停までお送りし、大変好評を得ています。その他介護保険法によるホームヘルプサービスもこれまでと同様に行なっています。

これからも利用者の皆様の様々なニーズに対応したきめ細やかなサービスを提供していけるよう努力してまいります。

「かしの木ひろば」の事業概要
◇自立支援法
〈通所〉生活介護事業
地域活動センター事業
（日中活動・日中一時活動）
〈訪問〉居宅（重度）介護事業
行動援護事業
地域活動センター事業
（移動支援）
◇介護保険法
訪問介護事業
介護予防訪問介護事業

〒518-0851 三重県伊賀市上野寺町1184-2
TEL・FAX 0595-21-2745
TEL・FAX 0595-22-2288

身障施設のページ

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々

（平成19年１月～平成19年７月）

《個人》 ―敬称略・五十音順―

井岡　昭、石原　京子、伊藤　知徳、猪木　千里、井元　信子、上田　順子、上谷　和子、内山徳次郎、太田　久子、大西　寿子、大矢　孝臣、岡森　金一、岡森眞理子、小川　茂子、小川　秀貴、小澤　義清、片田佐枝子、川浪　玲子、北泉　優子、北寺　真弓、久米　光子、小林ふじ智、澤井　昭男、島　茂、清水　栄子、杉森ちえみ、角田　充代、角田　宗成、関　光子、竹島　和実、竹永　真秀、田中美代子、玉川　弘毅、玉谷　正和、田山紗知子、塚本　寶、塚本　初子、戸髙　久昭、豊田　實、豊田　礼子、鳥井　恭子、中川　定子、中井　克明、長町　尚格、中森　勇、中山　洋美、西岡　文男、西田　誠、西出　成子、屹ノ下照光、長谷川かよ子、福浦　忠、福田三重子、藤井　恵美、藤島　千代、藤森　三重、古川　節郎、別所　法山、前川加代子、前川　悟、前川　重孝、前川　光枝、南出　寛三、峰　尚臣、森岡　佑子、森　喜良、森下　栄一、森下　弘子、森田　満枝、森田やえ子、森中　一美、森中　萱子、森西　宏、森本　孝夫、矢倉　昌、保田　和男、保田　明男、山下　吉男、大和　幸司、山本　浜子

《団体》 ―敬称略・順不同―

上野点訳グループあい、上野音訳グループしのび、名張点訳グループあかり、名張音訳グループこだま、絵手紙いろは、絵本ボランティアもこもこ、にんじんクラブ、ボランティアグループあゆみ、ボランティアグループミックスジュース、カマキリ部隊、大滝地区、小田町公民館、小田町自治会、桂地区、木根地区、白樫地区、長田公民館、長田地区住民自治協議会、治田地区、花垣地区民生児童委員、花之木公民館、花之木児童福祉会、花之木地区委員会、古山公民館、古山地区長会、古山地区民生児童委員、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、南山城村役場、予野地区、三重県共同募金会、岡波看護専門学校、前田教育会、上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、伊賀市東生保護女性の会上野支部、隼門ホール「語り部塾」、白百合の会、徳居町老人クラブ、友生地区老人クラブ、東高倉カラオケ愛好会、福居町老人クラブ、ゆめが丘シニアの会、光都の会、混声合唱団コーロ・Gui-、ミュージックコミュニケーション・スパイス、黒住教上野中教会、日蓮宗法院寺上野支院安立寺、常住寺、西蓮寺、平井神社、伊賀森林組合、上野和牛肥育部会、伊賀北部農協長田ふれあい店、伊賀北部農協府中ふれあい店、伊賀北部農協古山ふれあい店、大矢歯科、グリーンティー高尾、コーカ共同製茶、翠鳳庵、田山北部共同製茶工場、田山第一共同製茶工場、田山南部共同製茶工場、西尾テンキ、西田整形外科医院、日本生命労働組合津支部、日本ファイン、朗天狗、増田商店

～ 平成18年度 当法人の決算諸表（公益事業会計含む） ～

資金収支計算書(法人全体)

平成18年4月1日～平成19年3月31日　（千円）

勘定科目	決算額
介護保険収入	358,912
自立支援費収入	144,121
利用料収入	37,762
措置費収入	197,703
運営費収入	1,053,932
私的契約利用料収入	1,384
医療事業費収入	20,519
経常経費補助金収入	222,561
寄附金収入	8,900
雑収入	26,887
借入金利息補助金収入	865
受取利息配当金収入	27
会計単位間繰入金収入	17,270
経理区分間繰入金収入	56,084
経常収入計	**2,146,927**
人件費支出	1,474,896
事務費支出	170,105
事業費支出	303,496
借入金利息支出	929
会計単位間繰入金支出	17,270
経理区分間繰入金支出	56,084
利用者負担減免額	862
経常支出計	**2,023,642**
【経常活動資金収支差額】	123,285
施設整備等補助金収入	5,500
施設整備等収入計	**5,500**
固定資産取得支出	41,757
施設整備等支出計	**41,757**
【施設整備資金収支差額】	－36,257
借入金元金償還補助金収入	8,000
財務収入計	**8,000**
借入金元金償還支出	9,000
積立預金積立支出	39,030
財務支出計	**48,030**
【財務活動資金収支差額】	－40,030
＜当期資金収支差額合計＞	**46,998**
〔前期末支払資金残高〕	154,235
当期末支払資金残高	201,233

事業活動収支計算書(法人全体)

平成18年4月1日～平成19年3月31日　（千円）

勘定科目	決算額
介護保険収入	358,912
自立支援費収入	144,121
利用料収入	37,762
措置費収入	197,703
運営費収入	1,053,932
私的契約利用料収入	1,384
医療事業費収入	20,519
経常経費補助金収入	222,561
寄附金収入	8,900
雑収入	26,887
引当金戻入	125,152
借入金元金償還補助金収入	8,000
国庫補助金等特積立取崩額	70,258
事業活動収入計	**2,276,091**
人件費支出	1,472,635
事務費支出	170,105
事業費支出	303,496
減価償却費	117,093
利用者負担減免額	862
引当金繰入	131,919
事業活動支出計	**2,196,110**
【事業活動収支差額】	79,981
借入金利息補助金収入	865
受取利息配当金収入	27
会計単位間繰入金収入	17,270
経理区分間繰入金収入	56,084
事業活動外収入計	**74,246**
借入金利息支出	929
会計単位間繰入金支出	17,270
経理区分間繰入金支出	56,084
事業活動外支出計	**74,283**
【事業活動外収支差額】	－37
【経常収支差額】	79,944
施設整備等補助金収入	5,500
その他の収入(事業活動)	16,143
特別収入	21,643
基本金組入額	805
固定資産売却損処分損	270
その他の支出(事業活動)	15,805
特別支出	16,880
【特別収支差額】	4,763
【当期活動収支差額】	84,707
〔前期繰越活動収支差額〕	636,337
【当期末繰越活動収支差額】	721,044
基本金取崩額	846
その他の積立金積立額	39,030
【次期繰越活動収支差額】	682,860

貸借対照表(法人全体)

平成18年4月1日～平成19年3月31日　（千円）

	勘定科目	決算額
資産の部	流動資産	389,742
	現金預金	42,341
	未収金	344,536
	前払金	565
	仮払金	2,300
	固定資産	2,739,355
	固定資産(基本財産)	1,834,925
	建物	1,672,950
	土地	161,975
	固定資産(その他固定資産)	904,430
	建物	217
	構築物	9,004
	車輌運搬具	7,676
	器具及び備品	108,136
	ソフトウェア	15,985
	権利	898
	投資有価証券	11
	措置施設繰越特定預金	108,472
	建設積立預金	50,000
	償還積立預金	5,000
	人件費積立預金	72,370
	修繕積立預金	132,307
	備品等購入積立預金	44,530
	保育所施設設備整備積預金	78,300
	退職共済掛金	147,524
	その他積立預金	124,000
	資産の部合計	**3,129,097**
負債の部	流動負債	291,428
	未払金	181,868
	預り金	6,641
	賞与引当金	102,919
	固定負債	181,524
	設備資金借入金	34,000
	退職給与引当金	147,524
	負債の部合計	**472,952**
純資産の部	基本金	111,313
	国庫補助金特別積立金	1,246,993
	その他の積立金	614,979
	建設積立金	50,000
	償還積立金	5,000
	人件費積立金	139,674
	修繕積立金	159,825
	備品等購入積立金	58,180
	その他積立金	124,000
	保育所施設設備整備積立金	78,300
	次期繰越活動収支差額	682,860
	（うち当期活動収支差額）	84,707
	純資産の部合計	**2,656,145**
	負債及び純資産の部合計	**3,129,097**

編集後記

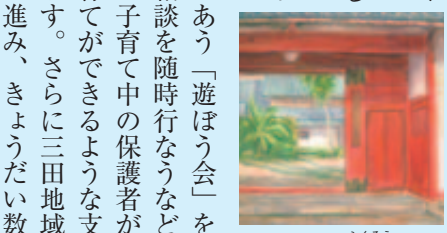
近年、日本列島において地震が頻発しています。本年７月16日には新潟中越沖地震が発生し、多くの死傷者や建物の損害など甚大な被害を及ぼしました。伊賀地域においても「木津川断層」や「頓宮断層」が存在し、最大震度６強の大きな地震が発生する恐れがありますので、家屋の耐震化や非常食品の備蓄など地震に対する備えをしておくことが大切です。さて、私たちが従事する社会福祉施設は、本来の目的以外に有事の際には、被災者の受入場所の提供や避難所への職員派遣などの支援活動を行なうという重要な役割があります。そのために、職員一人ひとりがその責務を自覚し、その使命を果たせるよう努めたいと思います。　（編集子）

施設案内 ～四季折々の自然に囲まれて～ 三田保育園

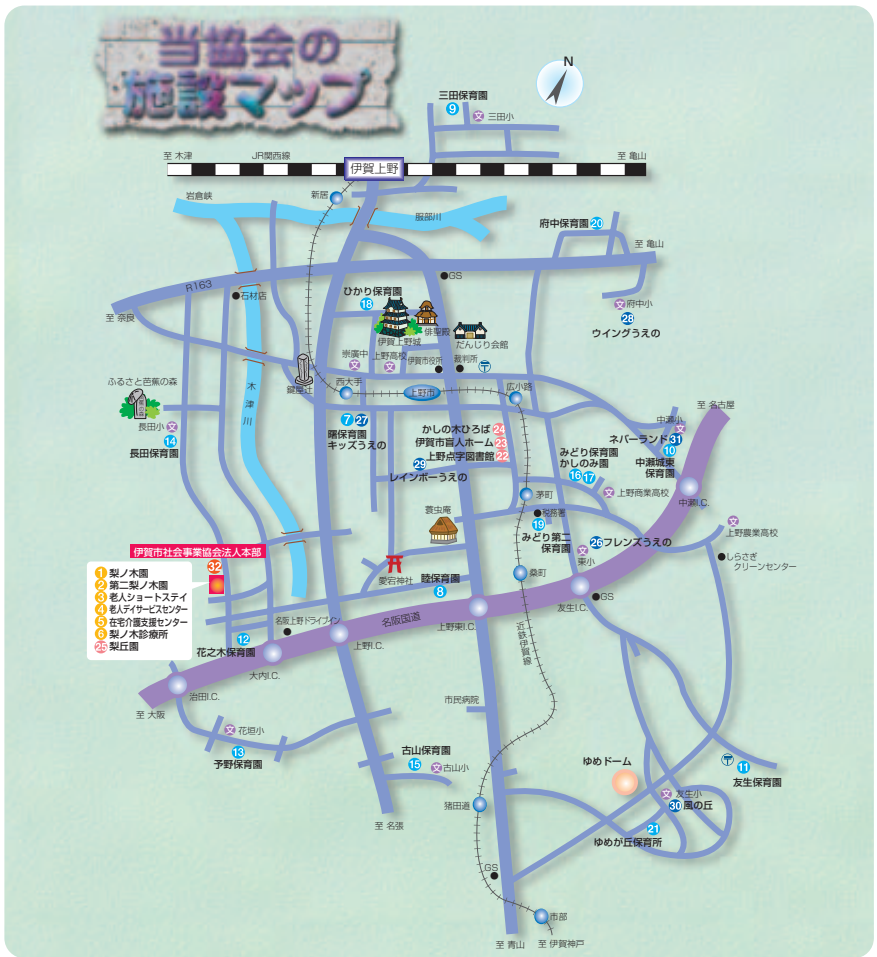
三田保育園は、伊賀盆地北限三田山の山裾にあり、伊賀市の北の玄関口ＪＲ関西線伊賀上野駅から北東へ約十分の所にあります。昭和二十五年、地域の農繁託児所として開設され、昭和三十年に定員四十名の認可保育所として三田社会福祉会が運営、昭和三十八年には、その運営を上野市社会事業協会（現・伊賀市社会事業協会）が引き継ぎました。平成八年、全面改築された木造園舎は、三田の子どもたちを見守り続けてきた園庭の桜の木と調和しています。また屋根の上に、三田山の梟に園を守ってもらいたいという思いから「風見の梟」を設置しました。

桜の木と調和した木造園舎

三田保育園では平成十八年度から、保護者の就労形態の多様化や疾病等による緊急時に、一時的に子どもを預けたいというニーズが高まり、一時保育を実施しています。また、地域の未就園の親子を園に招いて、親子でふれあう「遊ぼう会」を催したり子育て相談を随時行なうなどして、地域全体の子育て中の保護者が楽しみながら子育てができるような支援を行なっています。さらに三田地域でも近年少子化が進み、きょうだい数が減少しています。そこで子どもたちの成長には三・四・五歳児が一緒に活動する場が必要であると感じ、たてわり保育を積極的に実施しています。たてわり保育では大きい子は頼りにされることで、がんばろう、我慢しようといった気持ちを持つようになり、小さい子への思いやりの心も育つようです。また小さい子は大きい子へあこがれをいだき、遊びを模倣しているうちに、できるようになった喜びが味え、やさしくしてもらったことで、人への信頼感も生まれるようです。


風見の梟（ふくろう）

今後も保護者や地域の皆様のご支援をいただきながら、地域の子育て支援施設としての役割を担い、子どもたち一人ひとりの豊かな感性と思いやりの心が育めるよう、日々努力したいと思います。



当協会の施設

		（定員）
1	盲養護老人ホーム 梨ノ木園	70人
2	特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園	50人
3	老人ショートステイ	20人
4	老人デイサービスセンター なしのき	
5	在宅介護支援センター なしのき	
6	梨ノ木診療所	
7	曙保育園	180人
8	睦保育園	90人
9	三田保育園	60人
10	中瀬城東保育園	115人
11	友生保育園	90人
12	花之木保育園	45人
13	予野保育園	45人
14	長田保育園	45人
15	古山保育園	45人
16	みどり保育園	150人
17	心身障害児療育施設 かしのみ園	
18	ひかり保育園	120人
19	みどり第二保育園	120人
20	府中保育園	90人
21	ゆめが丘保育所	200人
22	上野点字図書館	
23	伊賀市盲人ホーム	
24	障害福祉サービス事業 かしの木ひろば	
25	障害者支援施設 梨丘園	20人
26	児童クラブ フレンズうえの	
27	児童クラブ キッズうえの	
28	児童クラブ ウイングうえの	
29	児童クラブ レインボーうえの	
30	児童クラブ 風の丘	
31	児童クラブ ネバーランド	
32	法人本部事務局	